

別紙⑨ 行政職員研修の概要(「地域のコーディネーター塾」等。2010～2012)

実施年	内容
2010	<p>■ 基調講演「新時代の自治体像と職員に求められる役割」昇秀樹(名城大学教授)</p> <p>■ パネル討論:「協働・地域のコーディネートとは何か」</p> <p>* 東海豪雨の際、県庁に予算なしでボランティア支援本部(官設民営・全国初)を設置した事例から 中野秀秋(愛知県防災局長)</p> <p>* 事例当時、愛知県NPO・ボランティアグループ班長。 栗田暢之((特)レスキューストックヤード代表理事)</p> <p>* 設立されたボランティア支援本部代表。 司会: 金田学(愛知県地域産業課課長補佐)</p> <p>* 事例当時の愛知県NPO・ボランティアグループ班職員。</p> <p>■ 実践事例から学ぶA「福祉有償運送の特区申請に学ぶ。ー協働をどう始めるか」</p> <p>* 福祉有償運送特区申請の際に、愛知県の「地域振興課」「高齢福祉課」「社会活動推進課」が連携した事例から 丹羽裕司(愛知県企業次長)</p> <p>* 事例当時、愛知県NPO・ボランティアグループ班長。 渡部勝((特)たすけあい名古屋代表理事)</p> <p>* 当時、福祉有償運送サービスを行うNPO協議体「移動ねっとあいち」(約 100 団体)代表。 司会: 大西光夫(ボランタリーネイバーズ)</p> <p>■ 実践事例から学ぶB「リニモ活用方策づくりと実施における協働のあり方。ー協働をどう発展させるか」</p> <p>* 地域協働を組み立てる際、地域の様々な主体を集めた事例。予算なしでも出来る行政の役割事例。 河隅彰二(愛知県地域政策課主幹)</p> <p>* 事例当時、県からリニモ株に出向中。 島田善規(リニモねっと代表)</p> <p>* 当時、名古屋市交通局を退職しWSに参加、取組みの中から生まれた市民活動団体代表。 司会: 大西光夫(ボランタリーネイバーズ)</p>
2011	<p>【管理職職員研修】</p> <p>司会: 昇秀樹(名城大学教授、元愛知県行革大綱検討委員会専門小委員会小委員長)</p> <p>講演1「これからの行政、これからの自治体」</p> <p>大森彌(東大名誉教授、地域に飛び出す公務員ネットワーク応援団長)</p> <p>講演2「求められる公務員像」</p> <p>椎川忍(総務省自治財政局長、前地域力創造審議官、地域に飛び出す公務員ネットワーク代表)</p> <p>対談「地域のコーディネーターとしての公務員とは」</p> <p>【協働連続研修】</p> <p>■ 実践事例から学ぶA「市民活動の未来、創造事業に学ぶ。ー協働をどう始めるか」</p>

	<p>川合信嘉(一宮市ふれあい課主任) 星野博((特)志民連いちのみや理事長)</p> <p>■実践事例から学ぶB「行政のまつりから市民のまつりへ。—地域へ飛び出す職員」 浜島吉孝(豊明市市民協働課課長) 松本小牧(同主査)</p>
2012	<p>「地域のコーディネーター塾(地域に飛び出そう編)」 【管理職職員研修】「協働型の地域を創る 職員・自治体を育てる」 司会:昇秀樹(名城大学教授) 大野明彦(愛知県県民生活部長) * あいち国際女性映画祭開催の経験等 新開輝夫(名古屋市市民経済局長) * 区役所で職員の「地域(学区)担当制」実施等 穂積亮次(新城市長) * 自治基本条例や地域自治区制度等 山田朝夫(常滑市副市長) * 職員のトイレ掃除の実施や市民病院改革ワークショップ等。総務省出身。</p> <p>【協働連続研修】 ■「地域のコーディネーターとは 地域課題の現状を把握する」 基調講演「新時代の自治体像と職員に求められる役割 ～地域のコーディネーターとは～」昇秀樹 名城大学教授 実践事例「東浦町がんばる地域支援事業」(鈴木貴雄:東浦町企画政策部協働推進課)</p> <p>■「地域の状況に応じ課題解決のための協働事業をデザインする」 実践事例「多文化共生啓発事業」(近藤祐子:大口町地域協働部地域振興課) 講義「地域をコーディネートするステップと検討すべき項目」(島田善規)</p>

◆こうした「研修取組み」の継承発展形として、行政職員の方の自主組織として、「夜のカタリバ」が結成され、交流・話合いの場が出来ている。

・「協働のマニュアル(ヒント集)」の作成や、(職員研修会に)「相互の講師派遣」なども行っている。